

地域医療連携だより

高松市立病院
基本理念

『生きる力を応援します』

高松市民病院
基本方針

- 1『リーディングホスピタル』として、高松市医療全体の最適化を目指します。
- 2『理想的な医療』を、ファインチームワークで提供します。
- 3『まごころのある医療人』を全力で育成します。

平成26年

11月号

〈第14号〉



診療科紹介

病理診断科

熊谷 久治郎

一般の臨床科と異なり、直接地域の先生方と接する機会はほとんどありませんが、今年7月より病理診断科を標榜することになりましたので、これを機会に当院の病理診断科を紹介させていただきます。

私が常勤の病理専門医として当院に赴任してきたのは昭和57年です。当時、香川県では県立中央病院や高松赤十字病院、三豊総合病院など限られた病院にしか常勤の病理医はいませんでした。そのため、他の病院から病理診断や病理解剖の依頼がよくあったのを覚えています。現在は香川大学医学部を中心に県内には23名の病理専門医がいます。かなり増えてはきていますが、それでも病理医が不足しているのが現状だと思います（欧米の病理医は全医師数の2.6%、我が国は0.7%とされています）。

現在当院の病理診断科のスタッフは常勤病理専門医（昭和58年取得）・細胞診専門医（昭和63年取得）



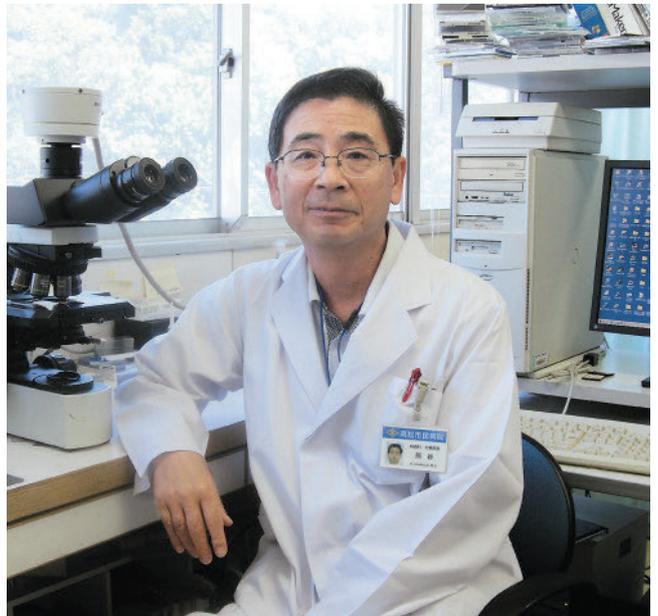
である私と細胞検査士3名（昨年、新しく一人試験に合格しました）ですが、細胞検査士は他の臨床検査業務も兼任しています。

年間の実績は、病理組織診断が約2000件、術中迅速病理組織診断が約150件、細胞診が約4000件です。臨床に役立つ迅速で正確な病理診断を基本方針に、生検材料は1～2日、手術材料は2～3日を目標に診断結果を報告するように努めています。ただ、近年の組織分類の多様性や各種がん取扱い規約による記載項目の増加のため一症例に掛かる時間が格段に増え、以前より報告が遅れることが多いのが悩みの種になっています。また、正確な診断のためには前回標本との比較が必要になる場合があり、検索が簡単に行えるように症例のコンピュータ登録を平成元年から始めました。その延長線上で、平成14年からは肉眼あるいは顕微鏡写真を添付した報告書の作成を始め、臨床の先生方には評価していただいております。

皆様方もご存知のように、病理診断学の基本は顕微鏡的観察による主観的な診断ですが、できるだけ客観的で正確な診断のためには酵素抗体法（組織標本上で目的とする抗原の有無および局在を判定）が必要になることがあります。当院では50種類以上の抗体を準備し、酵素抗体法はHE染色標本作製の翌日に、腎生検や皮膚生検の蛍光抗体法は基本的に生検当日に実施しています。

また近年、がんの分子標的治療薬が多く発売されるようになり、その適応を決定するための組織切片あるいは細胞診材料を用いたコンパニオン診断が盛んに行われるようになっております。当院でも外注対応ではありますが肺癌のEGFRやALK、乳癌や胃癌のHer-2、大腸癌のEGFRやK-rasなどを臨床の要望に応えられるように検査できる体制を整えています。

細胞診に関しましては、細胞検査士の充実もあり、EUS-FNA（超音波内視鏡下穿刺吸引）をはじめとした種々の臓器の穿刺細胞診検査において不適正検体の率を下げるため検査技師がベットサイドに出張し、検体処理をするようにしております。また、術中の



迅速細胞診にも対応しております。

病理解剖は年によりかなり差がありますが、昨年は12例実施し、内科学会の認定教育施設の認定基準を満たしております。

その他の業務として、年3～5回の解剖例のCPC（Clinico-Pathological conference）や週一回の外科術前術後カンファレンス、月一回のcancer boardに検討症例の提示、臨床の先生方の学会発表のお手伝いなどを行っています。以上が当院の病理診断科の現在の状況です。

今後のことですが、病理診断の精度管理の向上のため、近い将来、電子カルテに対応した病理診断システムの導入および病理医2名体制にする予定で検討を進めています。

なお、当院では以前から受託検査として院外からの病理検査も受け付けております。もし、地域の先生方で病理診断あるいは細胞診診断でお困りになるようなことがあれば、病理診断科にお気軽にご相談あるいはご依頼いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

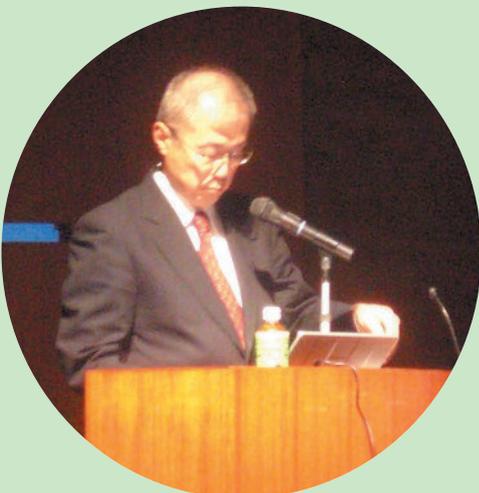


『第3回 高松市立病院学会』の開催

10月18日（土）に香川県教育会館ミュージズホールにて、高松市立3病院（高松市民病院、塩江分院、香川診療所）合同の『第3回 高松市立病院学会』を開催しました。

今回は、北海道松前郡にあります松前町立松前病院院長の木村 眞司先生をお招きして「町立松前病院の挑戦」という演題でご講演をしていただきました。講演内容から総合診療医としての役割を明確化して実践することの大切さや研修医の地域に密着した教育・指導方法などを学ぶことができました。その他、院内から8題の発表を行いました。また、今年度より地域医療機関の皆様にも本学会を公開させていただいたため、院内関係者だけでなく、日頃から病診連携においてご協力を頂いております多くの近隣医療機関従事者の方々にご参加いただくことができました。誠にありがとうございました。

来年度も本学会を開催予定としておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



木村 眞司先生

緩和ケア推進イベント『第2回 おいでまいよ会』の開催

緩和ケアチーム 豊島 弘子

10月10日（金）に『第2回 おいでまいよ会』を開催いたしました。この会は、緩和ケア週間に合わせて緩和ケアの啓発を行うための会です。当院では、がん早期からの緩和ケアを患者・家族・職員へ推奨するために昨年から行っています。多くの人に参加して欲しいという思いから讃岐弁の「来て下さい」の意味を込めて「おいでまいよ会」と命名しました。

今回は、当院緩和ケア認定看護師（長尾）による講話や立てだしの抹茶を飲みながらのがん相談、バザーなどを催しました。多くの参加者の協力の元、盛況に終えることができたバザーの売り上げ金は全額骨髄バンクに募金させていただきました。

来年はさらに充実した企画で皆さんにご参加いただけるよう工夫してまいりたいと思っております。



次回地域医療連携セミナー開催のお知らせ

日時 平成27年2月18日(水) 午後7時～

場所 高松市民病院 西館2階 西会議室

演題 「異物の画像診断」 放射線科 大友 真姫 医師
「外科におけるヘルニア治療について」 外科 篠原 永光 医師

※事前申し込みが必要です。

お問い合わせ先：地域医療連携室 TEL:087-834-2181(代表) FAX:087-834-2223(直通)

日本医師会生涯教育制度の体験学習1.5単位カリキュラムコード(47, 9)取得

当日は、軽食をご用意しております。

一人でも多くの先生方のご出席をお待ちしております。

介護関連施設職員研修会を開催しました



第6回介護関連施設職員研修会を通して

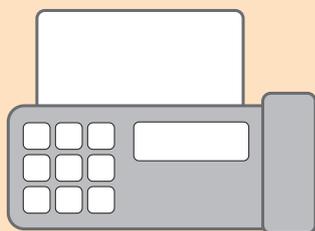
9月17日(水)に『薬を服用するときの注意点について』の演題にて、38名の施設職員の方にパーキンソン病や薬品全般についての講義のみならず、吸入器を実際に触れて貰い種類や使用方法について学んでいただきました。当日行ったアンケート調査より、「吸入での体験をしてみて相手の立場になっての吸入方法が分かったので生かしていきたい」「利用者の方々とのコミュニケーションや信頼作りに生かしたい」など多数のご意見をいただくことができました。ご参加ありがとうございました。



第7回介護関連施設職員研修会を通して

10月23日(木)に『緩和ケアについて』の演題にて、当院緩和ケア認定看護師より講義を行いました。30名の施設職員の方にご参加いただきました。当日行ったアンケート調査より、「緩和ケア=癌という考えであったが、高齢者や脳障害など…施設内においても常に身体的・精神的苦痛を軽減し、訴えを傾聴することでよりよいケアができることが分かった」「どうしても疾患に目がいきがちになるが、何のための看護か誰のための看護かを考え、患者様と共に苦痛を軽減していく看護について考えながらケアしていこうと思う」など多数のご意見をいただくことができました。ご参加ありがとうございました。

… FAX 予約をお願いします…



患者さんをご紹介していただく際に、**地域医療連携室**へ事前にFAX予約をお願いいたします。「高松市民病院FAX診療申込書」をご利用ください。

電話 (087) 834-2181(代表)

FAX (087) 834-2223(直通)

受付時間 平日(月～金) 8:30～17:00

※当日のFAX予約は受付できませんのでご了承ください。